

2018年度（平成30年度）
マガレイの漁況予測
 （道北日本海～オホーツク海）

平成30年4月12日

（地独）北海道立総合研究機構



稚内水産試験場

網走水産試験場

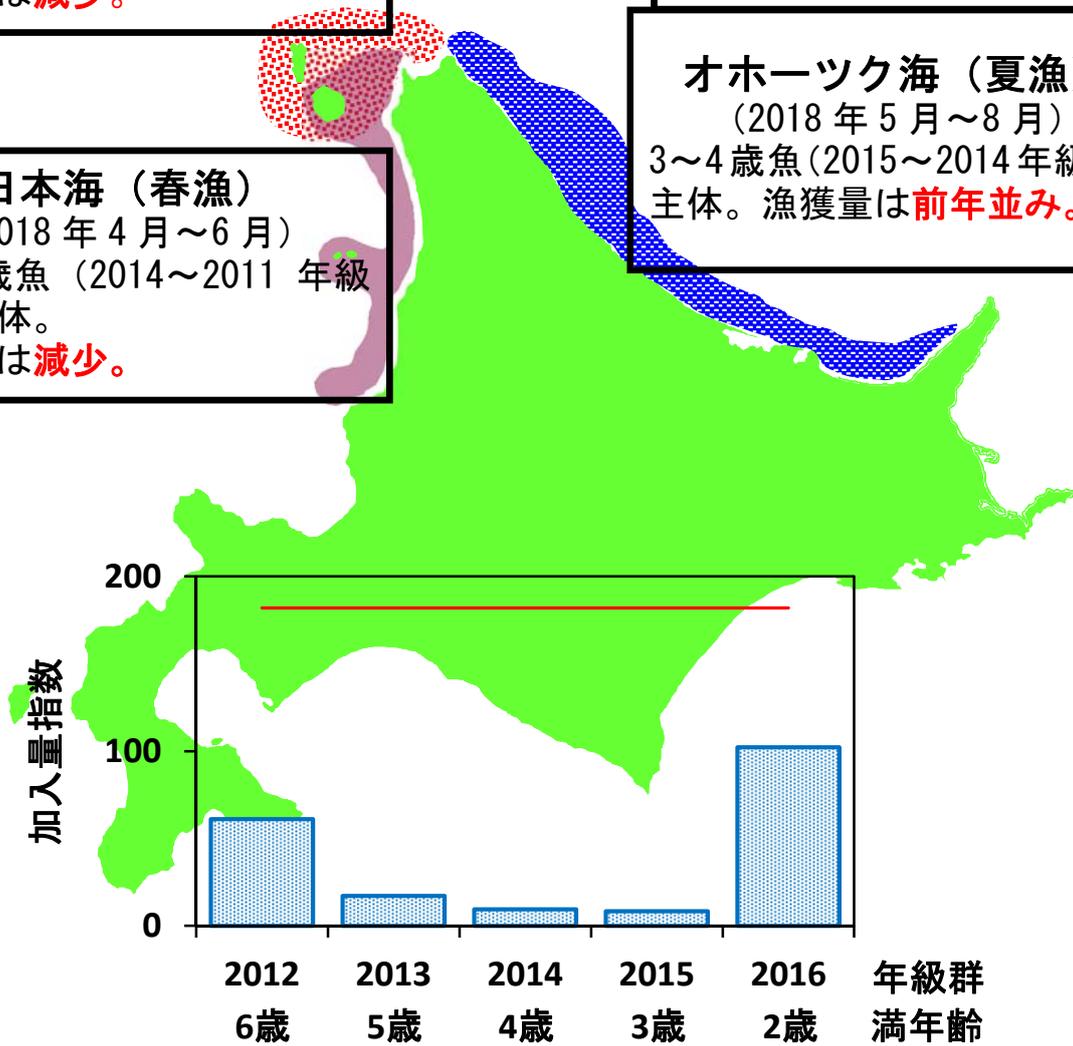
道総研

日本海（冬漁）
 （2018年10月～翌2月）
 3～6歳魚（2014～2012年級群）主体。
 漁獲量は**減少**。

オホーツク海（秋漁）
 （2018年9月～12月）
 3～4歳魚（2015～2014年級群）が主体だが、2歳魚（2016年級群）の加入が増加。漁獲量は**増加**。

日本海（春漁）
 （2018年4月～6月）
 3～6歳魚（2014～2011年級群）主体。
 漁獲量は**減少**。

オホーツク海（夏漁）
 （2018年5月～8月）
 3～4歳魚（2015～2014年級群）主体。漁獲量は**前年並み**。



2018年度の主な漁獲対象

※赤い横線は1991～2010年級の平均

稚内水試 HP (<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/wakkanai/section/zoushoku/index.html>)

網走水試 HP (<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/index.html>)に生態情報等を掲載

2018 年度（平成 30 年度）
マガレイの漁況予測
 （道北日本海～オホーツク海）

稚内水産試験場 Tel 0162-32-7166

網走水産試験場 Tel 0152-43-4591

（平成 30 年 4 月 12 日）

はじめに

道北日本海～オホーツク海のマガレイは日本海を産卵場としています。日本海で生まれた魚の一部は日本海に留まって生活しますが、多くは卵～仔魚期にオホーツク海へ輸送されます。そして、オホーツク海で未成魚期の 2～3 年を過ごした後、成熟の進行に伴い産卵のため日本海へ戻ります。このため、オホーツク海では漁獲物の中心が 2～3 歳の未成魚（ただし、近年は 4～5 歳魚の割合も高くなっている）であるのに対し、日本海では 3 歳以上の成魚が漁獲の中心になります。漁況予測については、漁獲対象の特性に合わせて、以下の 4 つの漁業区分に分けて行っています。

予測対象漁業	海域	漁期	主漁獲対象
日本海春漁	増毛以北日本海沿岸	4～6 月	3～6 歳の産卵親魚
オホーツク海夏漁	オホーツク海	5～8 月	3 歳の未成魚、4～5 歳魚
オホーツク海秋漁	オホーツク海	9～12 月	2～3 歳の未成魚、4～5 歳魚
日本海冬漁	宗谷海峡～利尻、礼文島	10～2 月	3～5 歳の産卵回遊群

概況

道北日本海からオホーツク海におけるマガレイの漁獲量は、1997 年度の 3,001 トンをピークに減少しましたが、2003 年度には 3,090 トンまで増加しました（図 1）。その後、漁獲量は 2008 年度（2,642 トン）や 2012 年度（2,091 トン）に一時的に増加しましたが、2015 年度まで減少傾向で推移していました。2016 年度以降は微増し、2017 年度は 12 月末までの途中集計ですが、前年同期の 1.1 倍に増加しました（図 1）。

漁業区分別および沖合底曳の漁獲量をみると、2017 年度はオホーツク海での漁獲量が前年度に比べ 200 トン以上増加しましたが、日本海側及び沖合底曳の漁獲量は前年を下回っていました。

2018 年度の漁獲量については、2 歳魚（2016 年級群：2016 年生まれ）が前年より増加しますが、漁獲の主体となる 3～5 歳魚（2013～15 年級群）は、前年度より減少すると考えられます。これらのことから、日本海春漁・冬漁およびオホーツク海夏漁の漁獲量は前年度から減少します。オホーツク海秋漁では、2 歳魚の加入により前年並みになると予測されます。

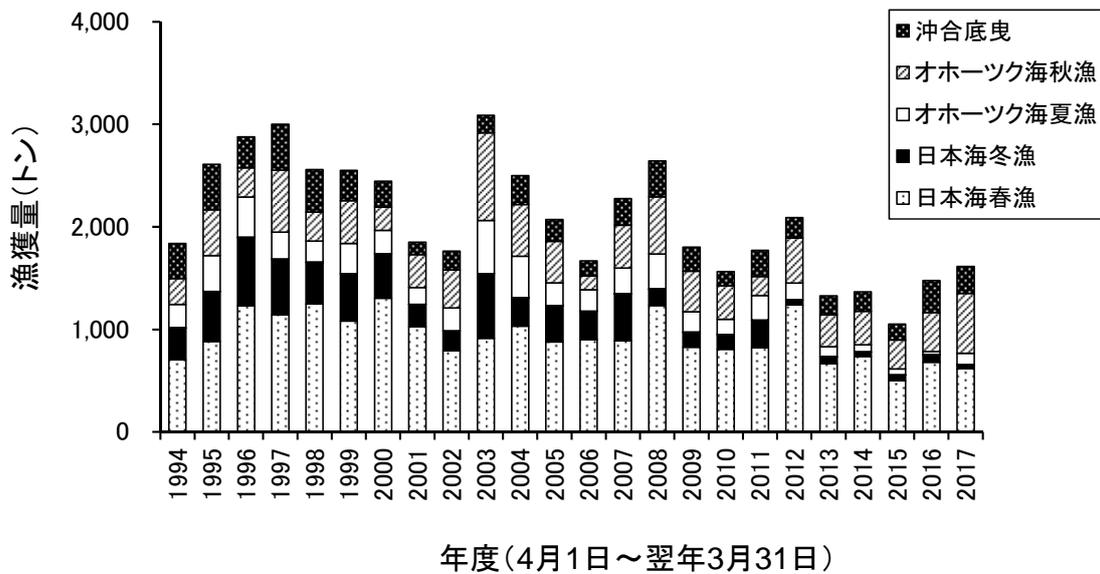


図1 マガレイ漁獲量の推移.

※資料は漁業生産高報告. 2017年度の漁獲量は12月31日までの集計値

予測の方法

水産試験場では、マガレイの新規加入状況を把握するために、毎年夏にオホーツク海の雄武町沿岸で小型桁網による幼魚調査を行っています。例年20点ほどの調査定点を設け、そこで採集した幼魚の水深帯別の単位面積あたりの尾数を、各水深帯の面積で引き延ばし、「加入量指数」としてしています。これまでの調査から、雄武の幼魚調査における1歳の加入量指数とVPAと呼ばれる資源計算から推定した1歳の資源尾数には正の相関があり(図2)、加入量指数が高い年級群は資源量が多く、漁獲対象年齢に達するとオホーツク海から道北日本海の海域全体で多く漁獲されることが分かっています。

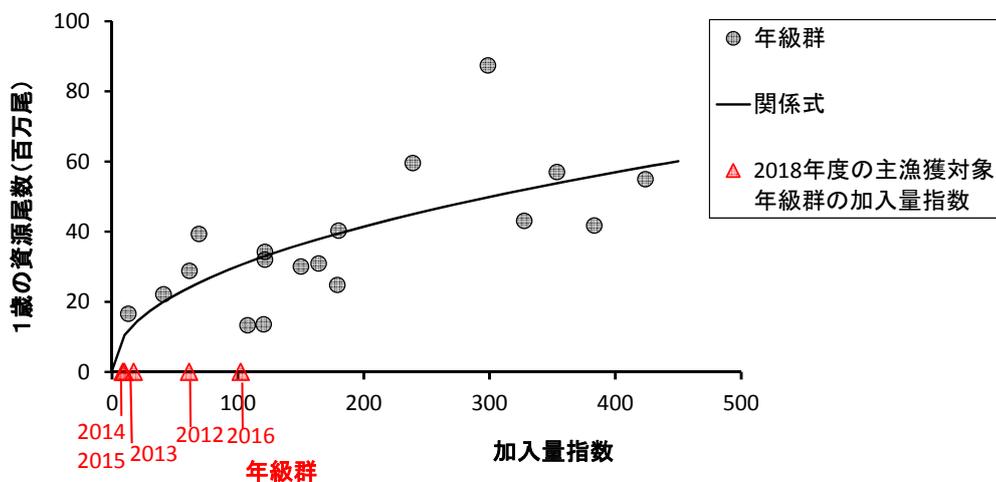


図2 雄武町沖の幼魚調査における加入量指数と1歳の資源尾数との関係.

資源豊度

道北日本海～オホーツク海では、主に2歳～6歳のマガレイを漁獲しています。2018年度に主な漁獲対象となるのは、2歳魚（2016年級群：2016年生まれ）～6歳魚（2012年級群：2012年生まれ）です。それぞれの年級群の1歳時の資源尾数は、図3に示された加入量指数を基に次のように判断されます。

- ・ 2歳魚（2016年級群：2016年生まれ）・・・やや少ない
- ・ 3歳魚（2015年級群：2015年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 4歳魚（2014年級群：2014年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 5歳魚（2013年級群：2013年生まれ）・・・非常に少ない
- ・ 6歳魚（2012年級群：2012年生まれ）・・・少ない

これらの情報をもとに、2018年度の漁況を海域・漁期毎に予測します。

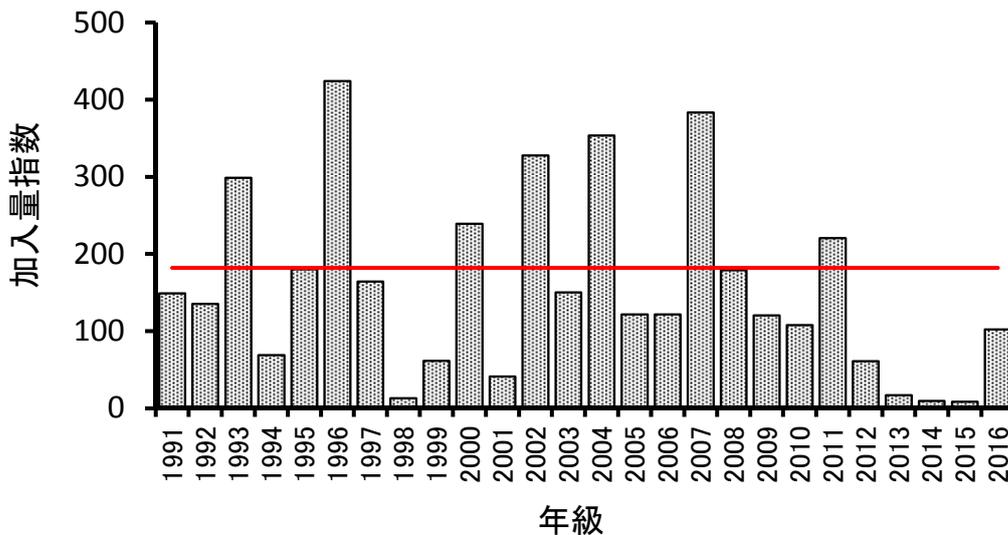


図3 各年級群1歳時の加入量指数。
※赤い横線は1991～2010年級の平均

道北日本海海域の予測

2018 年度の予測 (2017 年度同期と比較して)

春漁 漁獲量は減少

冬漁 漁獲量は減少

● 春漁 (2018 年 4～6 月)

日本海の春漁では、例年 3～6 歳の産卵親魚が主な漁獲対象となります。2018 年度に新たに加える 3 歳魚 (2015 年級群) の資源量は非常に少なく、漁獲の主体となる大型魚の資源量も少ないと見込まれることから、漁獲量は前年度より減少すると予測されます。

● 冬漁 (2018 年 10 月～2019 年 2 月)

宗谷海峡～利尻・礼文島周辺で秋から冬にかけて漁獲されるマガレイは、オホーツク海から日本海に産卵のため移動する群 (3～5 歳) が主体となります。2018 年度の 3 歳魚 (2015 年級群) と 4 歳魚 (2014 年級群) の資源量は非常に少なく、5 歳魚 (2013 年級群) も少ないと考えられ (図 3)、漁獲量は前年度より減少すると予測されます。

オホーツク海海域の予測

2018 年度の予測 (2017 年度同期と比較して)

夏漁 漁獲量は前年並み

秋漁 漁獲量は増加

● 夏漁(2018 年 5～8 月)

オホーツク海の夏漁は、3 歳魚が主体で、4 歳魚も多く漁獲される傾向があります。本漁期の主体である 2018 年度の 3 歳魚 (2015 年級群) の資源量は、平年よりかなり少なく、前年並みと予想されます (図 3)。また、4 歳魚 (2014 年級群) の資源量も平年よりかなり少ないと予測されます (図 3)。これらのことから、2018 年度の夏漁の漁獲量は前年度並と思われる。また、夏漁の推移のトレンドも横ばい傾向を示しています (図 4)。

● 秋漁(2018 年 9～12 月)

秋漁では 3 歳魚を主体に、加えて漁獲サイズにまで成長した 2 歳魚も加入してきます。2018 年度の 3 歳魚 (2015 年級群) の資源量は平年よりかなり少なく、前年並みと思われる。しかし 2 歳魚 (2016 年級群) の資源量は低水準ですが、前年よりかなり増加すると予測されます (図 3)。これらのことから、2018 年度の秋漁の漁獲量は前年度よりも増加するとと思われる。また、秋漁の推移のトレンドもゆるやかな増加傾向を示しています (図 4)。

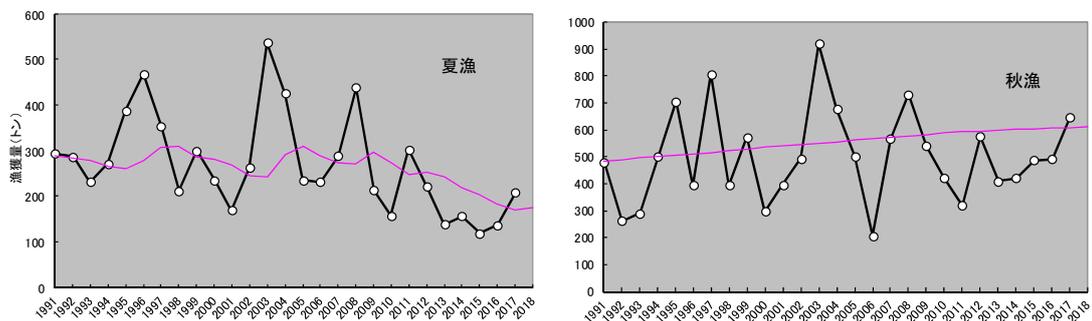


図 4 オホーツク海域のマガレイの夏漁(左)と秋漁(右)の推移.

※赤線はトレンドを示す。